

札幌市長 秋元克広 様

2021年7月30日
日本共産党札幌市議団
団長 村上 ひとし

新型コロナウイルスワクチンの接種促進と医療機関への支援を 求める緊急要望

ワクチン接種の大きな立ち遅れに拍車をかけているワクチン供給量の減少で、市民は先延ばしを強いられ、医療機関はキャンセル業務、患者対応に追われています。

こうした混乱の責任は国にあり、その意向に沿ってワクチン接種を促進させてきた自治体は、“はしごを外された”状態です。しかし、自治体にもまして深刻なのは、接種予約を受け付けながら、数千件ものキャンセル業務を強いられることになった医療機関です。

法人、個人を問わず、電話や窓口での対応などの負担が重くのしかかり、誠意をもって対応していても、患者との信頼関係を失いかねない事態に陥っていることから、ワクチン接種行政の改善と合わせて、支援を求める声が多数寄せられています。

今回の供給量減少に伴う混乱は、国のワクチン接種行政により引き起こされたものですが、接種促進のために協力を求めてきた本市としても、医療機関の減収に追い打ちをかける今回の事態にたいし、十分な支援をもって応えていただくよう緊急に要望するものです。

記

1. キャンセル業務にともなう人件費及び残業代、接種体制の拡充にむけて雇い入れた医師や看護師などの人件費分の損失、接種計画を変更せざるをえなくなったことによる医療機関の減収分などは、ワクチン供給量の減少が招いた国の責任によるものであり、医療機関が受け取る接種費用の大幅増額を国に求めるとともに、国と接種事業の主体である札幌市が協議して補てん措置をおこなうこと
2. 供給量減少は国の責任ですが、混乱を生じた経過と原因の説明責任は接種事業を進めている札幌市にあり、今後の接種計画や見通しもあわせて、マスコミなどを通じて直接市民に説明すること
3. 当初、市はアレルギーや既往症を知る、かかりつけ医が基本と呼びかけてきた経緯があることから、2回目接種に必要なワクチンを医療機関の希望に応じて提供すること
4. 今後の配分計画においても今回の教訓を踏まえ、個別接種に取り組む医師会や医療機関の理解や十分な協議をおこなうなど連携を強化すること
5. オリンピック開会以降、東京都は感染爆発ともいえる事態です。札幌市内で予定される競技をこのまま実施すれば感染急増を引き起こし、通常医療の制限、救急医療停止、手術延期、ワクチン接種遅延など、命の危険を招きかねず、市として競技の中止・延期を求めること